



宗教保育

司祭館の窓から外を見ると、隣に幼稚園がある。教会の司祭と幼稚園の園長を兼任している。双方ともにさまざまな悩みがあるが、園長としての悩みもけっこう大きいものがある。

カトリック幼稚園とは何か：ときどきその原点を考えてみる。全国には五五〇以上のカトリックの幼稚園があり、七三〇〇〇人以上の園児が通っている（保育所は別）。年々園児数が減っているとはいえず、これは大きい数である。そのカトリック幼稚園で何が行われているのだろうか。他の幼稚園とどこが違うのだろうか。

のだった。カトリック幼稚園で働く教職員約一〇〇〇人が全国から集まった。わたしは第五分科会を担当。テーマは「聖書から学ぶ保育の心」。分科会の参加者は二四〇人だったが、おそらく聖書の話をもどのように子どもたちに伝えたいのかを考えるために参加したと思う。実際、分科会の場で書いてもらったアンケートには、「神様やイエス様、マリア様、聖書のことをどのようにに子どもたちに伝えたいのか」という悩みが断然多かった。メインテーマにもあるように「真のカトリック幼児教育」とは何かを念頭に置いて分科会を進めた。聖書の話はほとんどしなかった。

球に生きるすべての子どもたちへ」というタイトル。何の説明もなしに、まずこのDVDを見てもらった。次のような映像が映し出される。解説は何もない。宇宙船と宇宙から見た地球。「地球の出」。聖堂で行われている宗教保育の様子「幼稚園で生きている「命」を聖堂に連れてきて祭壇に奉納する。花、団子虫、カブトムシやチョウチョウの幼虫、キュウリ、トマト、二十日大根」、歌、園長の話。聖堂から出て行く前の一人ひとりへの園長の祝福。支援しているミンダナオの子どもたちについての講演会の様子。幼稚園の畑でできたトマトを収穫したときの様子。畑を見る子どもたちの喜び。園庭の聖母像前での祈り。四月のアースデーの時の子ども



やまもと まこと 山元 眞 神父

とともにささげるミサの様子と、近くの河岸で行った親子と一緒のゴミ拾い。クリスマス前の聖劇の一場面「受胎告知と星を探し求める三人の占い師」。JRの駅での七夕飾り。聖堂の十字架のキリスト像。再び地球の映像を背景に、祝福を受けて聖堂から出ていく子どもたちの姿。「LOVE」という小さな文字と共に、幼稚園ホールに掲げられている大きな聖母子の絵の映像で終わる。「カトリック」の原意は「普遍的・普遍的」ということ。つまり、すべてに共通していること。すべての基本にあること。いつの時代もどこでも共通していること。大会のテーマにあるように、まさに「今こそ：真の：カトリック：教育」について考えるときだと思う。再考するときだと思う。

宗教心は人が生まれつきもっている生きていくために神から与えられたものだと思う。

先のアンケートの「悩み」欄を読んでみると、多くの教職員が「宗教」を伝えるのが難しく悩んでいる。おそらく教職員の九割がカトリックの信者でないと思う。キリスト教の教義を、カトリックの教えを伝えきれない、と悩んでいる。

いいか悪いか未だによくわからないが、わたしは週一度の宗教保育で聖書の話そのものはほとんどしない。話していることは：みんな神さまの子ども。神さまはみんなが幸せになることを望んでおられる。神さまはいつもわたしたちと一緒にいて、みんなにお恵みをくださっている。みんなが仲良くすることを一番喜んでくださる。みんなは神さまから望まれて「命」という素晴らしいお恵みをいただいた。みんなつながっている…。一年中、ほとんど毎週、このようなことを話している。子どもたちは飽くことなく（たぶん）いつも真剣に聞いてくれる。先のようなことを毎回、確認して、日々の（園）生活をおくっている。

園庭の隅にある畑でいつも野菜の育ち具合を見ている子がいる。ある日、そっと後ろから近づいて見ると：しんぷさまあ：いのちって：みんな：つながっているんだよね、って感心した様子で話してくれた。

一学期の終業式の日。わたしの話をさえぎって：かみさまって：いるんよね。ゆめにでてくるよ。かみさまって：いつもいっしょにいるんよね：って立ち上がって真剣に「教えて」くれた。最後の祝福のときも：かみさまいるんよ：って、また確認するようにわたしに話してくれた。

一人の女の子は：幼稚園で紙でお守りを作って家に持ち帰る：おかあさん：これね：せかいじゅうのみんなのおまもりだよ：と母親に言ったという。

このような話は山ほどあると思う。これでいいのではないか、とわたしは思う。教義を教えようとしたり、キリスト教の知識を教えようとしたりする前に、しっかりと「普遍的」なことを伝えることが大事ではないだろうか。

祈りにについても、祈りの言葉

りを「する」ことが大切。沈黙の時間、静かな時間と環境を整えて神さまとお話ししようと促せば、子どもは自分の心で、自分の言葉で祈ることができるし、神さまの望みも知ることができる。

分科会のテーマの一つの答えは次のようなもの。ゆるぎない価値観（善悪の判断）を身に付け、しっかりとした宗教観（神とのつながり）の中で生きること。カトリック幼稚園の「保育の心」とはこのようなもの。「宗教保育」とは、文字通り：人間（子どもたち）の心の底にすでにある宗教心を保ち、育むことではないだろうか。宗教、宗派にこだわることなく、全宇宙を包んでおられる命の源である神とのつながりの中で生きること。これは、カトリックの洗礼を受けていなくてもできる「宗教保育」ではないかと思う。

ひよっとしたら、すでに信者である者の方が根本的なところを見直す必要があるのではないか：とも思っている。

【教会ホームページ】<http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp>

【ブログ】<http://micheleyan.exblog.jp>

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

(株) 沼崎商会

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

サマリア式典部 沼崎 馨